

北見工業大学学報

第244号 (2011年3月号)

目 次

学位記授与式	平成22年度学位記授与式を挙行・・・・・・・・・・・・・・・・	2
告 辞	平成22年度学位記授与式告辞・・・・・・・・・・・・・・・・	3
入 試	大学院工学研究科(第2次)入学試験を実施・・・・・・・・	6
	工学部入学試験の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・	7
研 究 助 成	矢崎科学技術振興記念財団研究助成採択決定・・・・・・・・	8
	平成22年度共同研究の受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	平成22年度奨学寄附金の受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・	8
人 事	人事異動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
国 際 交 流	第3回ガスハイドレート関連研究国際ワークショップを開催	19
	2011年留学生交流の夕べ・・・・・・・・・・・・・・・・	20
諸 報	福利施設改修工事の完了・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	平成22年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を実施	23
	北見工業大学技術セミナー(技術士養成支援講座)の開講	24
	地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を本学で開催	25
	FDワークショップ、FD講演会を開催・・・・・・・・	26
	平成22年度冬季安全衛生講習会を開催・・・・・・・・	27
	ハラスメント相談員研修を実施・・・・・・・・	28
	網走測量設計協会と包括連携協定書を締結・・・・・・・・	29
	平成22年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式(退職時)を 挙行・・・・・・・・・・・・・・・・	30
日 誌	2・3月・・・・・・・・・・・・・・・・	31

= 学位記授与式 =

平成 22 年度学位記授与式を挙行

(総務課)

3月18日(金)、平成22年度学位記授与式が午前10時から北見市民会館大ホールで行われました。

学部366人の卒業生、大学院博士前期課程105人及び大学院博士後期課程2人の修了生及び論文博士3人に対し、鮎田学長から学位記が授与されました。

引き続き、学長告辞、小谷北見市長、永田後援会会長、富田同窓会会長及び滝沢学生後援会会長からの祝辞の後、情報システム工学科・村上優太さんが、「超氷河期と呼ばれる学生の就職難に加え、先日の東日本での大震災を受け、日本は未曾有の危機に直面しているが、私達が本学で学んだ知識と経験をフルに生かし社会に貢献すること



により、日本がこの危機から脱出した時には明るく素晴らしい未来が約束されることだろう」と答辞を読み上げ、式は無事終了しました。

卒業生、修了生等の人数は下表のとおりです。

学部

専攻名	卒業生数(人)
機械システム工学科	80
電気電子工学科	69
情報システム工学科	49
化学システム工学科	60
機能材料工学科	48
土木開発工学科	60
合計	366

大学院博士前期課程

専攻名	修了者数(人)
機械システム工学専攻	32
電気電子工学専攻	17
情報システム工学専攻	10
化学システム工学専攻	16
機能材料工学専攻	16
土木開発工学専攻	14
合計	105

大学院博士後期課程

専攻名	修了者数(人)
システム工学専攻	2
合計	2

論文博士 3人

= 告辞 =

平成 22 年度学位記授与式告辞

告辞に先立ちまして、この度の「東北地方太平洋沖地震」で被災された皆様に、北見工業大学を代表致しまして、心からお祝い申しあげます。



学部卒業、大学院修了の皆さん、おめでとうございます。

学部の皆さんは 4 年間、大学院生はもっと長く、それぞれの努力が実り、めでたく学位記を授与されたことに敬意を表し、北見工業大学の教職員を代表してお祝い申しあげます。

本日は、ご多用にもかかわらず、多くの父母の方にご出席いただき、また北見市長の小谷様、大学後援会長の永田様、同窓会長の富田様、学生後援会長の滝沢様にご臨席を賜り、本学の理事・副学長・事務局長が列席するなか、学位記授与式を挙行できますことに感謝申しあげます。

本年度は、学士 366 人、修士 105 人、博士 5 人に学位記を授与致しました。この中には、中華人民共和国、マレーシア、大韓民国、エジプト・アラブ共和国からの留学生がおります。

本日の卒業、修了は皆さんの努力のたまものでありますが、同時に本日列席されておられる、あるいは列席されていなくとも、皆さんを温かく見守り続けてくれたお父さん、お母さんをはじめとするご家族、友人の皆様方の精神的、経済的な支援のおかげであります。

特に、ご両親は今日この日を晴れやかな、

そして少しほっとした気持ちで迎えられていることと思います。そのようなご両親をはじめご家族の皆様に心からお慶び申しあげます。

今日卒業、修了する皆さんは、昭和 60 年代から平成にかけての生まれです。数年前、皆さん方が本学の入学試験を受けたとき、受験票を見て、平成生まれの赤ちゃんが大学生になるのかと感慨深かったことを思い出しています。本日皆さんに学位記を授与し、励ましの言葉をかけるにあたり、皆さんが今まで過ごした 20 数年間で日本や世界にどのようなことがあったのかを振り返って見ました。

皆さんが生まれたのは事実上東西冷戦が終結し、東西ドイツが統一されるなど世界が大きく変動した時代であり、また日本でバブル経済が崩壊した時代でもあります。

このように現在の世界、日本のターニングポイントになる時代に皆さんは生を受けたこととなります。

本学は今年度創立 50 周年という節目の年を迎えています。

本学が歩んだこの半世紀の日本は、皆さんが生まれる前と後でその様相が大きく異なっています。

皆さんが生まれる前の 30 年間は、インフレ経済で人口増加の下、製造業が経済の原動力となり、1970 年後半にはアメリカ学者の「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という著書がベストセラーになるなど右肩上がりの時代でした。

それに対して皆さんが生まれた後は、1989年12月に日経平均株価が史上最高値を示しましたが、そのバブル経済が崩壊し、長いデフレ不況となり、人口や労働力の減少が続くなかグローバル化が進んでいます。

この20年間を表す象徴的な言葉として、その前半はバブル経済崩壊後の「失われた10年」であり、その後、一時景気回復の兆しがあったもののリーマン・ショックに端を発し世界が同時不況に陥ったことで「失われた20年」とも呼ばれています。

このように皆さんは我が国や世界の経済が右肩下がりになった時代とともに成長してきました。

その結果、社会人になろうとしている皆さんを襲ったのが「就職氷河期」と呼ばれた10年前より厳しい「超氷河期」の就職難で、全国の大学卒業予定者の昨年12月時点での就職内定率は70%を割り、統計を取って以来の最低を記録しました。

このような時代環境のなかで社会に巣立とうとしている皆さんの中には将来に不安を抱いている人もいます。しかし、良いときも悪いときも未来永劫続くことはありません。悪いときがあれば必ず良いときがあります。

現在のように様々な課題や問題を抱えている時代こそ、若い発想で皆さんが力を発揮できるときと言えます。自分のおかれた環境を社会のせいにするのではなく、傍観者ではなく当事者として自分の力で社会の閉塞感を切り開いていくことを願っています。

そのためには、まず夢を持つこと、そして希望をかなえるために努力をすることが大事です。

現代ロケット工学の父ロバート・ゴダー

ドは「昨日の夢は今日の希望であり、明日の現実である」という言葉を残しています。

昨年この言葉通り、夢が希望になり現実となった出来事がありました。記憶に残っている一つは日本の小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還であり、もう一つはチリの鉱山事故の救出劇です。

2003年に打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ」は、目的の小惑星への着陸に成功したものの、その後、トラブルが相次ぎ、帰還が絶望視されていたなか、それを克服し小惑星の微粒子を持ち帰り7年ぶりに地球に戻りました。宇宙航空研究開発機構の技術陣の努力が夢と希望を実現させたのです。

2010年8月に発生したチリ共和国の鉱山落盤事故では、33人の作業員が事故から70日間近く地下700mの坑道に閉じ込められました。生存が危ぶまれるなか作業員たちは地上からの救出を待ち、希望を捨てずに団結し、生還を見事実現させたのです。夢や希望が現実になったのです。

昨年はノーベル化学賞に2人の日本人が受賞する明るい話題もありました。そのうちのお一人鈴木章さんは北海道の生まれ育ちであり、本学にも教え子がおりますし、講演などで来学もされています。雑誌文藝春秋12月号の先生へのインタビュー記事の中に、恩師のアメリカパデュー大学のブラウン博士ご夫妻を本学学長とともに知床にご案内し、割烹旅館にご招待した30数年前の逸話が載っています。ブラウン夫人が魚の活き作りを気持ち悪がったという話です。このように本学とも長いお付き合いがある先生ですが、ノーベル賞受賞が決まった後、若い人たちに向けたメッセージを積極的に発しており、そのうちの一つが「希

望は人から与えられるものではなく、自分で見つけるもの」です。

夢の実現に向けて努力することが希望をかなえることになり、夢が現実のものとなるのです。

さて、1週間前の金曜日、11日の午後、未曾有の天災が我が国を襲いました。マグニチュード9.0という観測史上国内最大で、1900年以降、世界で発生した地震でも最大規模の三陸沖を震源とする「東北地方太平洋沖地震」です。

地震とそれに伴う大津波で1万人を超える方が亡くなったり、行方不明になったりしていると報道されています。

加えて、東京電力福島第一原子力発電所で、日本の原子力発電の事故では初めての核燃料の一部が溶ける「炉心溶融」が起きました。

地震発生の翌日は、本学では北見と大阪を会場とする後期日程の入学試験日でした。受験生のうち50人は被災地方の高校生で、ただでさえ緊張を強いられる入学試験で、家族などを襲った地震の影響を案じながらの受験になり私どもも心が痛みました。また、試験会場に来ることができなかった受験生もおり、明日19日、土曜日に追試験をします。

被災地方から本学に進学している学生は在校生の約1割の260人余りおり、地震発生直後から安否確認を行っていましたが、幸いにも卒業生、修了生全員の無事が確認

され、一安心したところです。

今回の大震災は、我が国にとって戦後65年間で最も厳しい危機と思われませんが、試練に耐え、力を合わせてこの危機を乗り越えるために、今私たちはそれぞれの立場で何ができるのか、何をすれば力になれるのかを考え、行動に移さなければなりません。

世界中の100を超える国や地域・国際機関から救助隊の派遣や物資提供の申し入れがあります。国境を越えて互いに支え合う人と人のつながりに大きな感動を覚えます。

4月から社会人になる皆さんの中には、その持っている技術を活かし、様々な分野でこの大震災の復興を担うことになる人も少なくないと思います。健闘を期待しています。

皆さんには大震災の復興の一翼を担うとともに、失われた10年、20年を克服するという大きな課題が与えられています。

社会人になったばかりの身で双肩に担うには荷が重すぎると感じるかもしれませんが、「若いときの苦労は買ってでもせよ」ということわざもあります。ぜひ、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還や、チリの落盤事故からの生還のように望みを捨てずに、夢や希望にあふれる我が国・世界にするために、本学で得た技術的な知見を基に努力を重ね、活躍されることを心から願って学位記授与式にあたっての私からの告辞と致します。

平成23年3月18日

国立大学法人北見工業大学長

鮎田耕一

= 入試 =

大学院工学研究科（第2次）入学試験の実施

（入 試 課）

平成23年度大学院工学研究科博士前期課程（第2次）入学試験が、2月7日（月）（学力検査）と8日（火）（面接試験）に実施されました。

各専攻別の合格者数等は下表のとおりです。

また、平成23年度大学院工学研究科博士後期課程（第2次）入学試験が、2月7日（月）に実施されました。

各専攻別、各課程別の合計者数等は以下のとおりです。

博士前期課程

専攻名	募集区分		一般入試		学部3年次学生 対象入試		外国人留学生 特別入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械システム工学専攻	5	4	0	0	1	1		
電気電子工学専攻	3	2	0	0	0	0		
情報システム工学専攻	4	4	0	0	0	0		
化学システム工学専攻	7	7	0	0	0	0		
機能材料工学専攻	3	3	0	0	0	0		
土木開発工学専攻	3	3	0	0	0	0		
合 計	25	23	0	0	1	1		

博士後期課程

専攻名	募集区分		一般入試		社会人入試		外国人留学生 入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
生産基盤工学専攻	0	0	0	0	1	1		
寒冷地・環境・エネルギー 工学専攻	2	2	2	2	1	1		
医療工学専攻	0	0	0	0	1	1		
合 計	2	2	2	2	3	3		

工学部入学試験の実施

(入 試 課)

本学の平成23年度学生募集に対して、1月24日(月)から2月2日(水)までの受付期間に前期日程472人、後期日程1,409人の出願がありました。

前期日程は3月7日(月)に合格者を発表し、後期日程は東北地方太平洋沖地震のため、3

月12日(土)に受験できなかった受験生対象の追試験を3月19日(土)に行い、3月22日(火)に合格者を発表しました。

今年度の入試実施結果は、下表のとおりです。

前期日程

系 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械・社会環境系	70	177	149
情報電気エレクトロニクス系	63	151	92
バ 伐環境・マテリアル系	46	144	101
合 計	179	472	342

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械・社会環境系	50	567	93
情報電気エレクトロニクス系	42	473	60
バ 伐環境・マテリアル系	36	369	56
合 計	128	1,409	209

推薦入試

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機械・社会環境系	40	61	44
情報電気エレクトロニクス系	35	50	38
バ 伐環境・マテリアル系	28	47	29
合 計	103	158	111

= 研究助成 =

矢崎科学技術振興記念財団 一般研究助成採択決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研究課題	交付金額	備 考
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	ガスハイドレートの解離・再生特性に着目した小温度差発電システムを用いたマイクログリッド用ベース電源の開発	2,000千円	奨学寄附金として受入れ

平成22年度共同研究の受入状況

平成23年3月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
電気電子工学科	教授	田村 淳二	風力発電と連携した水電解システム制御技術の研究	株式会社日立製作所基礎研究所
社会環境工学科	准教授	高橋 清	減災に対する住民・企業・行政の新たな連携に関する基礎的研究	北見土木技術協会
バイオ環境化学科/バイオマスエネルギー研究推進センター	教授	鈴木 勉	木質バイオマスの鉄触媒炭化による高導電性炭素の製造	協同組合ラテスト
機械工学科	教授	柴野 純一	結晶損傷進展の結晶方位依存性に関するX線の検討	社団法人北見工業技術センター運営協会
社会環境工学科	教授	川村 彰	一般路対応簡易IRI測定システム開発と新興国路面性状の把握	株式会社ワークム北海道
社会環境工学科	教授	前田 寛之	地域資源の活用による不良土の有機質資材化事業における発酵技術研究	株式会社 池知建設
バイオ環境工学科	教授	堀内 淳一	地域資源の活用による不良土の有機質資材化事業における発酵技術研究	株式会社 池知建設
地域共同研究センター	教授	鞆師 守	ごみBOXの製品改良と製造能率向上に関する研究・開発	札幌シティ環境株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	一般道用 I R I 測定手法の研究	株式会社共和電業

平成22年度累計83件

平成22年度奨学寄附金受入状況

平成23年1月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
					円
	学長	鮎田 耕一	学生に対する支援 (大学院学生奨学金支給)	北見工業大学後援会	930,000
機械工学科	准教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツ設計に関わる工学研究のため	株式会社レクザム	100,000
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	クランプ凍結膨張再現試験 (冷却試験) 実施のため	三和テッキ株式会社	500,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	複雑な河道条件下における今後の気候変動による海面上昇に伴う影響検討モデルの開発	株式会社建設技術研究所東京本社	500,000
国際交流センター	教授	山岸 喬	教育研究助成のため	株式会社カイゲン	700,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	寒冷地における今後の道路構造のための環境対策に関する研究	パシフィックコンサルタンツ株式会社	1,800,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	低温下における積層ゴム支承の機能特性に関する研究	株式会社川金コアテック	2,000,000

平成22年度累計54件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
23. 1. 31	工学部准教授	石川 和宏	辞職（金沢大学へ転出）
23. 3. 1	(新規採用)	駒井 克昭	工学部准教授
〃	(新規採用)	金 敬鎬	工学部助教
23. 3. 31	工学部教授	鈴木 輝之	定年退職
〃	工学部教授	青木 清	定年退職
〃	工学部教授	山岸 喬	定年退職
〃	工学部准教授	菅原 宣義	定年退職
〃	総務課係長	美村 薫	定年退職
〃	学生支援課営繕手	野田 高虎	定年退職
〃	技術部室長	平田 広昭	定年退職
〃	工学部教授	榎本 浩之	辞職（国立極地研究所へ転出）
〃	工学部准教授	熊耳 浩	辞職
〃	工学部准教授	辻 寧英	辞職（室蘭工業大学へ転出）
〃	工学部准教授	吉田 秀樹	辞職（鹿児島大学へ転出）
〃	工学部助教	斎藤 全	辞職（愛媛大学へ転出）
〃	施設課長	永井 雅彦	辞職（室蘭工業大学へ転出）
〃	入試課長	玉木 衛	辞職（帯広畜産大学へ転出）
〃	財務課副課長	水野 範善	辞職（北海道大学へ転出）
〃	情報図書課係長	梶原 茂寿	辞職（北海道大学へ転出）
23. 4. 1	理事・副学長	高橋 信夫	国際交流センター長（兼務）
〃	工学部准教授	鈴木 聡一郎	工学部教授
〃	工学部准教授	亀田 貴雄	工学部教授
〃	工学部准教授	高橋 清	工学部教授
〃	工学部助教	佐藤 満弘	工学部准教授
〃	(新規採用)	川口 貴之	工学部准教授
〃	(新規採用)	橋本 泰成	工学部准教授

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
〃	工学部助教	服部 和幸	工学部准教授
〃	工学部助教	大野 智也	工学部准教授
〃	(新規採用)	許斐 ナタリー	工学部准教授
〃	北海道教育大学事務局財務部施設課総括主査	荒谷 正樹	施設課長
〃	北海道教育大学事務局学務部教務課総括主査	三浦 哲也	入試課長
〃	施設課副課長(係長兼務)	小林 正巳	施設課副課長
〃	学生支援課係長	伊藤 孝子	総務課係長
〃	学生支援課係長	高橋 定志	総務課専門職員
〃	企画広報課係長	山本 渉	総務課係長
〃	財務課主任	工藤 圭輔	財務課専門職員
〃	施設課主任	尾崎 直	施設課係長
〃	(新規採用)	内島 典子	研究協力課専門職員
〃	総務課専門職員	本庄 哲朗	学生支援課専門職員
〃	北海道大学附属図書館利用支援課	磯本 善男	情報図書課係長
〃	旭川医科大学学長政策推進室政策推進係主任	上野 智子	総務課主任
〃	企画広報課	白鳥 善裕	研究協力課主任
〃	総務課主任	木村 加寿美	学生支援課主任
〃	学生支援課	高橋 亜喜子	学生支援課主任
〃	情報図書課	尾河 康典	情報図書課主任
〃	企画広報課	奥村 由理香	総務課
〃	学生支援課	中村 圭吾	総務課付(文部科学省研修生)
〃	研究協力課	菊池 翔	企画広報課
〃	情報図書課	山本 至	財務課
〃	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ長	大内 均	技術部学部・大学院支援室長
〃	技術部大学運営支援室環境安全支援グループ作業環境測定係技術員	白川 和哉	技術部大学運営支援室環境安全支援グループ安全衛生係長

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
〃	技術部学部・大学院支援室ものづくり支援グループ機械工作技術係技術員	山田 忠永	技術部学部・大学院支援室ものづくり支援グループ機械工作技術係長
〃	技術部学部・大学院支援室技術専門員	平松 雅宏	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ長
〃	技術部学部・大学院支援室ものづくり支援グループ機械工作技術係長	堂田 誠治	技術部学部・大学院支援室技術専門員
〃	技術部大学運営支援室環境安全支援グループ安全衛生係長	須澤 啓一	技術部大学運営支援室環境安全支援グループ作業環境測定係長
〃	技術部大学運営支援室環境安全支援グループ作業環境測定係長	橋本 晴美	技術部大学運営支援室環境安全支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ技術専門職員	佐藤 敏則	技術部学部・大学院支援室ものづくり支援グループ技術専門職員

各種委員会

(総務課)

平成23年4月1日現在

	役員会	経営協議会	教育研究評議会	学科長・講座主任	専攻主任
議長	学 長 鮎 田 耕 一	学 長 鮎 田 耕 一	学 長 鮎 田 耕 一		
委員	理 事 高 橋 信 夫	理 事 高 橋 信 夫	理 事 高 橋 信 夫	機 械 工 学 科 柴 野 純 一	博 士 前 期 課 程
	理 事 田 牧 純 一	理 事 田 牧 純 一	理 事 田 牧 純 一	社 会 環 境 工 学 科 大 島 俊 之	機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻 柴 野 純 一
	理 事 小 野 薫	理 事 小 野 薫	理 事 小 野 薫	電 気 電 子 工 学 科 吉 田 公 策	電 気 電 子 工 学 専 攻 吉 田 公 策
		副 学 長 田 村 淳 二	副 学 長 田 村 淳 二	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 三 浦 則 明	情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻 三 浦 則 明
		副 学 長 吉 田 孝	副 学 長 吉 田 孝	バ イ オ 環 境 化 学 科 星 雅 之	化 学 シ ス テ ム 工 学 専 攻 星 雅 之
		事 務 局 長 加 藤 幹 彦	機 械 工 学 科 柴 野 純 一	マ テ リ ア ル 工 学 科 松 田 剛	機 能 材 料 工 学 専 攻 松 田 剛
		そ の 他 学 外 委 員 7 人	社 会 環 境 工 学 科 大 島 俊 之	共 通 講 座 照 井 日 出 喜	土 木 開 発 工 学 専 攻 大 島 俊 之
			電 気 電 子 工 学 科 吉 田 公 策		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
			情 報 シ ス テ ム 工 学 科 三 浦 則 明		
			バ イ オ 環 境 化 学 科 星 雅 之		
			マ テ リ ア ル 工 学 科 松 田 剛		
			共 通 講 座 照 井 日 出 喜		博 士 後 期 課 程
			地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー 長 川 村 彰		生 産 基 盤 工 学 専 攻 羽 二 生 博 之
			機 器 分 析 セ ン タ ー 長 堀 内 淳 一		寒 冷 地 ・ 環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 工 学 専 攻 田 村 淳 二
			采 用 エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー 長 庄 子 仁		医 療 工 学 専 攻 吉 田 孝
			情 報 処 理 セ ン タ ー 長 榮 坂 俊 雄		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
			技 術 部 長 亀 丸 俊 一		
			事 務 局 長 加 藤 幹 彦		
			機 械 工 学 科 大 橋 鉄 也		博 士 後 期 課 程
			社 会 環 境 工 学 科 山 下 聡		(平成21年度以前入学者)
			電 気 電 子 工 学 科 野 矢 厚		シ ス テ ム 工 学 専 攻 田 村 淳 二
			情 報 シ ス テ ム 工 学 科 柴 田 孝 次		物 質 工 学 専 攻 吉 田 孝
			バ イ オ 環 境 化 学 科 青 山 政 和		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
			マ テ リ ア ル 工 学 科 渡 邊 眞 次		
			共 通 講 座 伊 関 敏 之		
任 期	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31

	系 列 長	学 長 補 佐	教 務 委 員 会	学 生 委 員 会	入 学 者 選 抜 委 員 会
委 員 長			副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 田 村 淳 二	副 学 長 田 牧 純 一
副 委 員 長					学 長 補 佐 山 下 聡
委 員	機 械 ・ 社 会 環 境 系 柴 野 純 一 (地域連携担当)	高 橋 修 平	機 械 工 学 科 山 田 貴 延	機 械 工 学 科 羽 二 生 博 之	機 械 工 学 科 宮 越 勝 美
	情 報 電 気 ・ エレクトロニクス系 吉 田 公 策 (学生支援担当)	柴 野 純 一	社 会 環 境 工 学 科 中 山 恵 介	社 会 環 境 工 学 科 三 上 修 一	社 会 環 境 工 学 科 堀 彰
	バ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系 星 雅 之 (入 試 担 当)	山 下 聡	電 気 電 子 工 学 科 小 原 伸 哉	電 気 電 子 工 学 科 武 山 眞 弓	電 気 電 子 工 学 科 高 橋 理 音
	共 通 講 座 照 井 日 出 喜		情 報 シ ス テ ム 工 学 科 河 野 正 晴	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 今 井 正 人	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 原 田 建 治
			バ イ オ 環 境 化 学 科 菅 野 亨	バ イ オ 環 境 化 学 科 佐 藤 利 次	バ イ オ 環 境 化 学 科 中 谷 久 之
			マ テ リ ア ル 工 学 科 川 村 み どり	マ テ リ ア ル 工 学 科 射 水 雄 三	マ テ リ ア ル 工 学 科 渡 邊 眞 次
			共 通 講 座 水 本 正 晴	共 通 講 座 戸 澤 隆 広	共 通 講 座 芳 賀 和 敏
			地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー 鞘 師 守	国 際 交 流 セ ン タ ー 長 高 橋 信 夫	
任 期	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31

	図書館委員会	国際交流委員会	地域連携推進委員会	大学評価委員会	広報委員会
委員長	図書館長 吉田 孝	副学長 田村 淳二	副学長 高橋 信夫	理事 田牧 純一	副学長 田村 淳二
副委員長		学長補佐 高橋 修平	学長補佐 高橋 修平		学長補佐 柴野 純一
委員	機械工学科 渡辺 美知子	国際交流センター長 高橋 信夫	地域共同研究センター長 川村 彰	機械工学科 佐々木 正史	機械工学科 松村 昌典
	社会環境工学科 中尾 隆志	国際交流センター専任教員 許斐 ナタリー ダイアナ	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長 羽二生 博之	社会環境工学科 渡邊 康玄	社会環境工学科 川口 貴之
	電気電子工学科 谷本 洋	国際交流センター専任教員 荒谷 陽子	知的財産本部長 鞘師 守	電気電子工学科 吉田 公策	電気電子工学科 谷本 洋
	情報システム工学科 三波 篤郎	機械工学科 ウラ シャリフ	機械工学科 鈴木 聡一郎	情報システム工学科 山田 浩嗣	情報システム工学科 中垣 淳
	バイオ環境化学科 新井 博文	社会環境工学科 高橋 清	社会環境工学科 宮森 保紀	バイオ環境化学科 堀内 淳一	バイオ環境化学科 岡崎 文保
	マテリアル工学科 南 尚嗣	電気電子工学科 田口 健治	電気電子工学科 植田 孝夫	マテリアル工学科 阿部 良夫	マテリアル工学科 村田 美樹
	共通講座 福士 航	情報システム工学科 原田 康浩	情報システム工学科 榮坂 俊雄	共通講座 照井 日出喜	共通講座 鳴島 史之
		バイオ環境化学科 兼清 泰正	バイオ環境化学科 鈴木 勉	事務局長 加藤 幹彦	地域共同研究センター 鞘師 守
		マテリアル工学科 阿部 良夫	マテリアル工学科 宇都 正幸		事務局長 加藤 幹彦
		共通講座 ポゼック・クリストファー	共通講座 三枝 和彦		
		事務局長 加藤 幹彦	事務局長 加藤 幹彦		
任期	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 25. 3. 31	～ 24. 3. 31

	施設環境委員会	情報システム運営委員会	発明審査委員会	遺伝子組換え実験等安全管理委員会	
委員長	副 学 長 高 橋 信 夫	副 学 長 吉 田 孝	副 学 長 吉 田 孝	副 学 長 吉 田 孝	
副委員長			知的財産本部長 鞘 師 守		
委 員	地域共同研究センター長 川 村 彰	情報処理センター長 榮 坂 俊 雄	地域共同研究センター長 川 村 彰	バイオ環境化学科 堀 内 淳 一	
	機器分析センター長 堀 内 淳 一	情報処理センター専任教員 升 井 洋 志	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長 羽 二 生 博 之	〃 佐 藤 利 次	
	未 利 用 エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー 長 庄 子 仁	〃 寄 高 秀 洋		保健管理センター所長 本 田 明	
	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長 羽 二 生 博 之	機 械 工 学 科 三 戸 陽 一		研 究 協 力 課 長 高 橋 敏	
	機 械 工 学 科 尾 崎 義 治	社 会 環 境 工 学 科 八 久 保 晶 弘			
	社 会 環 境 工 学 科 後 藤 隆 司	電 気 電 子 工 学 科 柏 達 也			
	電 気 電 子 工 学 科 谷 藤 忠 敏	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 榎 井 文 人			
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 柴 田 孝 次	バ イ オ 環 境 化 学 科 三 浦 宏 一			
	バ イ オ 環 境 化 学 科 兼 清 泰 正	マ テ リ ア ル 工 学 科 射 水 雄 三			
	マ テ リ ア ル 工 学 科 大 野 智 也	共 通 講 座 阿 曾 正 浩			
	共 通 講 座 柳 等	事 務 局 長 加 藤 幹 彦			
	事 務 局 長 加 藤 幹 彦	教 育 I T 支 援 室 長 三 波 篤 郎			
任 期	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31		～ 25. 3. 31	

	学生支援センター	学生よろず相談室	就職支援室	教育IT支援室	
センター長・室長	副 学 長 田 村 淳 二	マテリアル工学科 射 水 雄 三	機 械 工 学 科 柴 野 純 一	情報システム工学科 三 波 篤 郎	
副センター長・室長補佐・副室長	学生支援課長 森 實 利 一		学生支援課副課長 藤 田 美代子	電気電子工学科 平 山 浩 一	
兼任教員・センター員・室員	学生よろず相談室長 射 水 雄 三	機 械 工 学 科 渡 辺 美知子	機 械 工 学 科 尾 崎 義 治	社会環境工学科 宮 森 保 紀	
	就職支援室長 柴 野 純 一	社会環境工学科 伊 藤 陽 司	社会環境工学科 早 川 博	マテリアル工学科 射 水 雄 三	
	教育IT支援室長 三 波 篤 郎	〃 亀 田 貴 雄	電気電子工学科 野 矢 厚	情報処理センター長 榮 坂 俊 雄	
	就職支援室室長補佐 藤 田 美代子	電気電子工学科 高 橋 理 音	情報システム工学科 早 川 吉 彦	情報処理センター 寄 高 秀 洋	
	教育IT支援室副室長 平 山 浩 一	情報システム工学科 山 田 浩 嗣	バイオ環境化学科 佐 藤 利 次	学生支援課長 森 實 利 一	
		〃 中 垣 淳	マテリアル工学科 南 尚 嗣	学生支援課副課長 斉 藤 仁 史	
		バイオ環境化学科 菅 野 亨			
		共 通 講 座 柳 等			
		未 利 用 エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー 長 八 久 保 晶 弘			
		保健管理センター所長 本 田 明			
		学生支援課長 森 實 利 一			
		学生支援課副課長 藤 田 美代子			
任 期		～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	～ 24. 3. 31	

	教育改善推進センター	入試企画センター	不正防止対策室		
センター長・室長	副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 吉 田 孝		
副センター長・副室長	バイオ環境化学科 中 谷 久 之	社会環境工学科 山 下 聡	財 務 課 長 高 橋 秀 真		
			研究協力課長 高 橋 敏		
兼任教員・室員	機 械 工 学 科 山 田 貴 延	機 械 工 学 科 鈴 木 聡 一 郎	未 利 用 エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー 長 庄 子 仁		
	社会環境工学科 亀 田 貴 雄	電 気 電 子 工 学 科 平 山 浩 一	機 械 工 学 科 佐 々 木 正 史		
	〃 早 川 博	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 榮 坂 俊 雄	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 榮 坂 俊 雄		
	電 気 電 子 工 学 科 川 村 武	バ イ オ 環 境 化 学 科 星 雅 之	マ テ リ ア ル 工 学 科 阿 部 良 夫		
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 原 田 建 治	マ テ リ ア ル 工 学 科 阿 部 良 夫			
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 鈴 木 範 男	共 通 講 座 福 士 航			
	マ テ リ ア ル 工 学 科 村 田 美 樹				
	共 通 講 座 山 田 健 二				
	〃 福 士 航				
任 期	～ 24. 3. 31	～ 25. 3. 31			

	クラス担任（1年）	クラス担任（2年）	クラス担任（3年）	クラス担任（4年）	就職担当教員
	機械・社会環境系	機械工学科 佐々木 正 史	機械工学科 小 林 道 明	機械工学科 柴 野 純 一	機械工学科 富 士 明 良
	A 主担任 三 枝 和 彦	〃 宮 越 勝 美	〃 渡 辺 美 知 子	〃 大 橋 鉄 也	〃 渡 辺 美 知 子
	〃 副担任 鈴 木 聡 一 郎	社会環境工学科 三 上 修 一	社会環境工学科 高 橋 清	社会環境工学科 中 山 恵 介	社会環境工学科 中 山 恵 介
	B 主担任 戸 澤 隆 広	〃 亀 田 貴 雄	〃 中 尾 隆 志	〃 早 川 博	〃 早 川 博
	〃 副担任 ウラ シャリフ	電気電子工学科 橋 本 泰 成	電気電子工学科 川 村 武	電気電子工学科 田 村 淳 二	電気電子工学科 田 村 淳 二
	C 主担任 福 士 航	〃 平 山 浩 一	〃 田 口 健 治	〃 谷 本 洋	〃 谷 本 洋
	〃 副担任 後 藤 隆 司	情報システム工学科 今 井 正 人	情報システム工学科 榊 井 文 人	情報システム工学科 鈴 木 範 男	情報システム工学科 亀 丸 俊 一
	D 主担任 芳 賀 和 敏	〃 原 田 建 治	〃 渡 辺 文 彦	〃 早 川 吉 彦	〃 早 川 吉 彦
	〃 副担任 駒 井 克 昭	バイオ環境化学科 新 井 博 文	バイオ環境化学科 佐 藤 利 次	バイオ環境化学科 星 雅 之	バイオ環境化学科 星 雅 之
	情報電気エレクトロニクス系	マテリアル工学科 宇 都 正 幸	マテリアル工学科 伊 藤 英 信	マテリアル工学科 松 田 剛	〃 佐 藤 利 次
	A 主担任 阿 曾 正 浩				マテリアル工学科 松 田 剛
	〃 副担任 植 田 孝 夫				
	B 主担任 斎 藤 正 美				
	〃 副担任 武 山 眞 弓				
	C 主担任 水 本 正 晴				
	〃 副担任 山 田 浩 嗣				
	D 主担任 鳴 島 史 之				
	〃 副担任 原 田 康 浩				
	バイオ環境・マテリアル系				
	A 主担任 柳 等				
	〃 副担任 服 部 和 幸				
	B 主担任 照 井 日 出 喜				
	〃 副担任 服 部 和 幸				
	C 主担任 山 田 健 二				
	〃 副担任 村 田 美 樹				
任 期	～ 24. 3.31	～ 24. 3.31	～ 24. 3.31	～ 24. 3.31	～ 24. 3.31

= 国際交流 =

第3回ガスハイドレート関連研究国際ワークショップを開催

(未利用エネルギー研究センター)

1月25日(火)、総合研究棟2階多目的講義室において創立50周年記念国際ワークショップ(一般公開)を開催しました。

鮎田学長の開会挨拶の後、韓国極地研究所(3人)、ロシア科学アカデミー研究機関(3人)、ベルギー・ゲント大学(1人)、アラスカ州立大学フェアバンクス校(1人)、東京大学(2人)、産業技術総合研究所(1人)から参加した11人の世界的研究者を交えて12件の研究発表と議論を行い、計73人が参加しました。2003年3月、2005年10

月に続く第3回目の開催となった今回は、センター設立から約10年の節目として計画した日韓セミナー(二国間交流事業;1月24~30日実施)のための「俯瞰的導入部」を兼ねています。これまでバイカル湖とオホーツク海を対象にセンターが行ってきたガスハイドレート研究を総括し、現状の問題点と解決策を議論して今後の研究指針とすることが開催の目的です。得られた総括と議論の詳しい内容は、セミナー成果集として近く発行する予定です。



第3回GH国際ワークショップ



主な参加者

2011 年留学生交流の夕べ

(研究協力課)

3月9日(水)、本学コミュニケーションアトリウムにおいて、外国人留学生と北見市及び近郊の国際交流関係団体、ホストファミリー及び本学教職員など約100人が参加して「2011年留学生交流の夕べ」を開催しました。

鮎田学長の挨拶に続いて、今春卒業・修了する9人の留学生を代表して中国からの留学生・陳海華さんから、日本で留学生活の思い出やお世話になった方々への感謝及び将来の抱負などのスピーチが行われた後、卒業生・修了生一人一人に学長から記

念品が贈呈されました。

交流会には、留学生が日頃から大変お世話になっている支援団体やホストファミリーの方々が多数参加されており、様々な活動や思い出話に花が咲いていました。

また、アトラクションとして卒業・修了する留学生のスライドによる自己紹介、在学留学生による歌や山岸国際交流センター長と留学生達によるウイグルダンスなどが披露され、盛況の中にも和やかな雰囲気うちに閉会しました。



記念撮影



パーティの様子

= 諸報 =

福利施設改修工事の完了

(施設課)

昨年6月より実施されていた福利施設改修工事が平成23年1月末日をもって完了しました。

本工事は福利施設内食堂の混雑解消を目的として、1階カウンター席の増築及び大学会館大集会室を食堂として改修したほか、2階へと上がる吹き抜け階段の増築工事を実施しました。

座席数は工事前の448席から約120席増設された他、ビュッフェコーナーも作られたため混雑する時間帯には食堂内で行列ができていたかつての状況も解消され、非常

に広々とした空間で食事を摂る事が可能となりました。

また2階食堂部分には本学で行われる教育研究活動を紹介するとともに、50周年を迎えた北見工業大学の歩みを年表等で展示している

「KITギャラリー」が併設されました。

食堂としての用途はもちろん、オープンキャンパスでの利用や一般の学外利用者に対する教育研究活動のPRの場として、活用が期待されています。



上段左：吹き抜け階段の外観

上段右：吹き抜け階段の内観

下段：改修された食堂



改修された大学会館 2 階部分



KIT ガラリー

平成 22 年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を開催

(企画広報課)

2月3日(木)、総合研究棟多目的講義室において平成22年度個公立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を実施しました。この研修は保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るため毎年開催しているものです。

今回は、エヌ・ティ・ティ・コムウェア北海道株式会社の上嶋裕文氏を講師にお招きし、「大

学における個人情報の取扱いと情報セキュリティ対策」と題し、大学が保有する個人情報の適切な取扱い方や近年の個人情報漏えい等事故の傾向について、約80分間の講演を実施しました。

講演には52人の教職員が参加し、本学における個人情報保護に対する意識も高まり、有意義な研修となりました。



講師の上嶋氏



講演の様子

北見工業大学技術セミナー（技術士養成支援講座）の開講

（研究協力課）

平成 23 年の技術セミナー（技術士養成支援講座）を北見（本学）と札幌（本学札幌サテライト）の 2 会場で同時に開講しました。

本講座は、北見及び札幌在住の本学出身技術士 11 人の全面的な協力を得て、実践的な講義内容を親切・丁寧に指導し、「技術士」の資格取得を支援するものです。

開講期間は、2 月から 7 月までの計 5 回とし、開講時間についても、勤務を持っている受講者が参加しやすいように、北見会場は主に土曜日の午後の 2 時間、札幌会場は平日の 18 時から 2 時間で実施します。受講生は、両会場合わせて 32 人で、その中に

は、北見会場へは帯広市や釧路町から、また、札幌会場へは留萌市や江別市などから通われる方もいて、参加者の技術士資格取得に向けての意気込みを強く感じました。

第 1 回目の 2 月 4 日（金）は、TV 会議システムを利用し、2 会場同時に開講式を行いました。開講にあたっての挨拶及び講座の趣旨説明を行った後、各講師からの自己紹介がありました。その後、会場毎に受講者からの資格取得に向けた決意表明を含めた自己紹介、講師による「技術士試験ガイダンス」と「技術論文の作成方法について」の講義を行って閉講となりました。



開会の挨拶をする高橋理事



受講生を激励する吉田副学長



熱心に講義を聴く受講生（北見会場（左）及び札幌会場）

地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を本学で開催

(研究協力課)

2月15日(火)、本年度第3回目となる地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を本学で開催しました。

本会議は、平成16年度からオホーツク圏を3ブロックに分けて斜網地区、遠紋地区、北見地区で開催しており、北海道、特にオホーツク地域の経済発展を目指し、周辺自治体・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱して、産学官連携に関する協議・情報交換会等を実施し、地域経済の振興を目的に活動を続けています。第

3回目となる本会議には、自治体から3人、金融機関から6人、公的機関から12人、周辺大学から3人、本学関係者13人の総勢37人の出席がありました。

各自治体からは地場製品の紹介や地域資源の活用についての相談等があり、各大学からは地域との連携やイベントの紹介、金融機関及び公的機関からは事業促進のための補助事業等の情報提供がありました。会議終了後には、大学内の施設見学を行いました。



会議の様子



FD ワークショップ、FD 講演会を実施

(学生支援課)

2月25日(金)、多目的講義室においてFDワークショップを開催しました。このワークショップは、「北見工業大学にe-Learningは根付いたか?」と題して、現代GPと教育IT支援室の共催で実施されました。

内容は、e-Learningに造詣が深く今年度退職さ

れる電気電子工学科の菅原宣義先生から「私の学生向けホームページ」と題してこれまで先生が積み上げてこられたe-Learningに関する取り組みについての貴重な講演があった他、有田教授からは「現代GPの取組状況の報告」がありました。その後RENANDIに関する講演が行われ、三波教授からRENANDIの概要について射水、宇都、宮森の各先生方からは、操作体験型発表として普段の講義等にRENANDIを活用している実践例の紹介があり、明日から役立つ活用法がそれぞれ披露されました。教職員の参加数は30人程度と少数でしたが、参加された方からの評判も上々で、次回以降も開催の要望があがっていました。

また、3月10日(木)には、多目的講義室において北海道大学の安藤厚名誉教授をお迎えし、「学習評価とGPA」と題してFD講演会を開催しました。



FDワークショップにて講演中の菅原先生

FDワークショップ
司会の亀丸教授



この講演会は、中期目標に記載されている「学習到達度を多面的に評価する方法についての検討」の一つとしてGPA制度の導入検討のために開催されたものです。安藤名誉教授からは、北大での教育改革の歩みとGPA制度の導入、それとほぼ同時期に導入した履修を制限するCAP制の導入などの報告があり、着実に教育改革が進んでいる現状が説明されました。また、本学で昨年度導入したクリッカーを使ったアンケートを行い、参加者を巻き込んだ熱入った講演会となりました。

参加者数は年度末の多忙な時期にもかかわらず教職員42人が参加し熱心に聴講していました。



講演いただいた安藤北大名誉教授(左)と講演の様子(右)

平成 22 年度冬季安全衛生講習会を開催

(施設課)

3月4日(金)、総合研究棟2階多目的講義室にて、日本赤十字北海道看護大学の澤田愛子先生をお招きして冬季安全衛生講習会を開催しました。

「災厄とメンタルヘルス ―トラウマと PTSD を中心に―」と題してトラウマや PTSD の影響がどういったものなのかという内容を皮切りに、災厄を逃れたものの精神的なショックを受けた数多くの方々に対して澤田先生ご自身がインタビューなされた経験を中心に講演をいただきました。

講習会には教職員あわせて約 30 人の参

加があり、参加者たちは貴重な体験談へ耳を傾けていました。

講演終了後の質疑において澤田先生は「トラウマや PTSD を負った人へのインタビューは聞いているだけで非常に辛く、涙を堪えながら行ったことも多々ありました。そういった人と接する際、うまく言葉をかけようとはせず、ただただ話を聞いてあげることがケアにつながります」との言葉をいただき、拍手をもって当講習会は締めくくられました。



講習会の様子

ハラスメント相談員研修を実施

(企画広報課)

3月23日(水)、ハラスメントに対する知識を深めるとともに、ハラスメントに起因する問題が生じた場合の必要な対応を習得するなどハラスメント相談員としての資質を向上させることを目的として、ハラスメント相談員研修を新たに実施しました。

外部講師から、求められる「相談員像」、電話対応基本スキル、コミュニケーションの基本、「きく」の意味について演習を交えた講義が行われ、受講者はロールプレイングなどに積極的に取り組んでいました。



網走測量設計協会と包括連携協定書を締結

(研究協力課)

3月24日(木)、本学において「網走測量設計協会との包括連携協定書」の調印式を実施し、関係者が見守る中、鮎田学長と土谷修一会長が協定書を取り交わしました。

この協定は、これまでの協会主催の講演会への本学からの講師派遣やイベントでの交流等の協力関係をより強固なものとし、産学の連携を通して相互の発展に寄与するとともに、地域経済の一層の活性化並びに自立的発展に資することを目的に締結したものです。

特に、本学学生に対する教育に関しては、大学での測量実習に協会から実務経験豊富な方を講師として派遣して支援いただくことにより、我が国のインフラ整備、特にこの度の大震災の被害の復興に役立つ人材を輩出できると確信しています。

この協定締結により、本学と協会との連携が更に緊密なものとなり、技術交流・人材育成交流が益々盛んになることを大いに期待しています。



協定書を取り交わす土谷会長(左)と鮎田学長

平成 22 年度国立大学法人北見工業大学 永年勤務者表彰式（退職時表彰）を挙

（企画広報課）

3月31日（木）、平成22年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式（退職時表彰）が午前9時40分から第2会議室において行われました。

本学永年勤務者表彰（退職時表彰）の被表彰者に対し、学長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

被表彰者は下表のとおりです。（50音順）

被表彰者

氏名	所属学科等
青木 清	マテリアル工学科
鈴木 輝之	社会環境工学科
平田 広昭	技術部
美村 薫	総務課



表彰状の授与



集合写真

= 日誌 =

2 月

- 3 日 個人情報保護研修
- 4 日 技術セミナー（技術士養成支援講座）
開講式
- 5 日 合同企業研究セミナー（～6日）
- 7 日 大学院博士前期課程（第2次）入学試験
（学力検査）、大学院博士後期課程（第
2次）入学試験（面接）
- 8 日 大学院博士前期課程（第2次）入学試験
（面接）
- 9 日 教務委員会、国際交流委員会
- 10 日 入学者選抜委員会、入学試験実施委員会
- 15 日 地域共同研究センター産学官連携推進
員・協力員合同会議、入学者選抜委員会
- 16 日 教授会、研究科委員会、大学院博士課程
合格発表、私費外国人留学生入試合格発
表
- 17 日 発明審査委員会
- 21 日 役員会
- 22 日 国際交流委員会
- 23 日 教育研究評議会、入学者選抜委員会
- 24 日 教務委員会
- 25 日 FDワークショップ
- 28 日 役員会、入学者選抜委員会

3 月

- 1 日 学生委員会、NEDOテーマ公募型事業制度
説明会
- 2 日 後期日程試験監督員説明会
- 3 日 地域連携推進委員会
- 4 日 冬季安全衛生講習会、入学者選抜委員会
- 7 日 教授会、JST公募事業説明会、前期日程合
格発表
- 8 日 北海道ガス共同研究テーマ公募説明会、
教務委員会
- 9 日 教授会、研究科委員会
- 10 日 「新時代工学的農業クリエーター人材
創出プラン」事業成果発表会、FD講習会
- 12 日 個別学力検査（後期日程）
- 14 日 役員会、学生表彰式
- 16 日 教育研究評議会
- 17 日 教務委員会、入学試験実施委員会、入学
者選抜委員会
- 18 日 学位記授与式
- 19 日 個別学力検査（追試験）
- 20 日 入学者選抜委員会
- 21 日 入学者選抜委員会
- 22 日 教授会、経営協議会、学長選考会議、
役員会、後期日程合格発表
- 23 日 ハラスメント相談員研修
- 24 日 工農プロジェクト・教育タスクフォー
ス合同委員会、「新時代工学的農業ク
リエーター人材創出プラン」事業修了
式
- 31 日 永年勤務者表彰式

